

I からだと心のケアに関する講座

9 最近話題のがん薬物療法を知ろう！ —免疫療法とゲノム医療ってなあに？—

受講料 有料
12月21日(土)
14:00~16:00

会場 本学札幌サテライトキャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目
アスティ45 12F

定員 50名

受講料 700円

講師
佐藤 さやか
札幌医科大学附属病院
血液・腫瘍内科
がん看護専門看護師

最近TVなどでよく耳にする免疫
チェックポイント阻害薬やゲノム医療。
これらの治療は今までのがん治療と
なにかがらうのか、どのような治療な
のか、わかりやすく解説します。がんの
3大療法のひとつである薬物療法の
最新情報に触れてください。

◆ちょっと役立つ看護の知恵⑥
道民カレッジ連携講座 主Ⅲ-1

講師紹介

▶佐藤 さやか(さとう さやか)

千葉大学大学院看護学研究科 博士前期課程修了。9年間の病院勤務後、11年千葉大学看護学部編入学。15年千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了。16年より現職。病棟スタッフと共にがん向き合い、ひたむきに生きる患者さん・ご家族の支援を行っています。
○専門研究分野/がん看護

II 生活に関する講座

11 当事者研究実践講座Ⅱ —現在(いま)をデザインする

受講料 有料
2020年
1月18日(土)
13:00~16:00

会場 本学札幌サテライト
キャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目
アスティ45 12F

定員 50名

受講料 各2,000円

講演1 可視化で人と経験を分かち合う —様々な手法—

講師
奥田 かおり
本学看護福祉学部講師

私たちは、毎日の生活で多くのコミュニケーションをとっていますが、時折人の話が見えにくい、理解できない難しい時があります。そのような時に言語表現だけではなく、コミュニケーションを可視化すること、自分の考えを自分の外に置いて眺めることで分かってくる場合があります。その手段のいくつかをご紹介します。どのように使われているのかを今回の講座でご紹介したいと思います。

講演2 対話のためのグラフィックレコーディング入門 —リアルタイムで話を見えることでわかること—

講師
清水 淳子
Tokyo Graphic Recorder 代表
デザインリサーチャー
グラフィックレコーダー
多摩美術大学
情報デザイン学科専任講師

グラフィックレコーディングとは、リアルタイムで話し合いを整理して記録することで、参加者の気づきを促進する手法です。近年、ビジネス会議や市民活動の場で注目を集めています。また相談援助やケアの領域、さらには当事者研究とも相性の良さから、関心が高まっています。このたびは基本から実際の活用までを体験的に学びます。

12 障がいがある子どものスポーツを考える —スポーツクラブの活動から見えるもの—

受講料 有料
2020年
1月19日(日)
10:00~12:00

会場 本学札幌サテライト
キャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目
アスティ45 12F

定員 50名

受講料 各2,000円

講師
松本 鴻太
シーガルサッカークラブコーチ

スポーツは子どもに対してその成長を促す力を持っていることが知られています。本講座では、発達障がいを中心に、実際の事例を通して、障がいがある子どものスポーツ参加のあり方やスポーツの効果について考えて行きます。

発達障がいセミナー①
道民カレッジ連携講座 主Ⅲ-4

講師紹介

▶向谷地 生良(むかいやち いくよし)

1955年生まれ。北星学園大学卒業。78年浦河赤十字病院医療社会事業部ソーシャルワーカー。01年北星学園大学非常勤講師を経て、03年本学就任。06年より現職。01年より当事者研究を創始し普及に努めています。社会福祉法人浦河べての家事事業。
○専門研究分野/当事者研究、精神障害者リハビリテーション、メンタルヘルス・ソーシャルワーク

▶富田 誠(とみた まこと)

1982年生まれ。武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業(原研哉ゼミ)。早稲田大学大学院国際情報通信研究科修了(長幾郎研究室)。デザインエンジニアリング系のスタートアップ創業、早稲田大学政治学研究所助手などを経て、現職。他には早稲田大学政治学研究所、表現工学科、実践女子大学非常勤講師、企業や公益法人等のアドバイザーを勤める。近年は様々な人々たちによる共創を支援するための視覚的対話について取り組んでいます。日本デザイン学会、公共コミュニケーション学会、環境芸術学会。
○専門研究分野/視覚化、視覚的対話、参加型デザイン

II 生活に関する講座

10 当事者研究実践講座Ⅰ —人生をデザインする

受講料 有料
2020年
1月18日(土)
10:00~12:00

会場 本学札幌サテライト
キャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目
アスティ45 12F

定員 50名

受講料 2,000円

講演1 人生をデザインする —対話を促進するツールとしてのデザインの可能性と当事者研究—

講師
向谷地 生良
本学看護福祉学部教授

当事者研究は、自分の体験を素材として「研究」し、自らの経験の意味を明らかにしていく対話のプロセスです。そこで活用される自己表現として、注目を集めているのが、デザイン思考やアートの領域とのコラボレーションです。

当事者研究セミナー①
道民カレッジ連携講座 主Ⅲ-3

講演2 えがきたいわ —言葉の壁を乗り越える視覚的対話の技法—

講師
富田 誠
東海大学教養学部
芸術学科准教授

私たちが人と話す時に「描く」ことを加えてみると、コミュニケーションはどのように変わるのでしょうか。言葉を発しあうように、描きあうことで、理解と協力を促す方法:視覚的対話の手法についてお話しします。

講師紹介

▶奥田 かおり(おくだ かおり)

米国コロンビア大学School of Social Work 修士号取得。非常勤として札幌市若者支援総合センターの相談員、また札幌市内の母子生活支援施設でも相談員として勤める。12年より現職。
○専門研究分野/家族支援、プレイバックシアター

▶清水 淳子(しみず じゅんこ)

多摩美術大学情報デザイン学科卒業後 デザイナーに。ジャンルを超えた横断的な事業を生むためのビジネスデザインに携わる。13年TokyoGraphicRecorderとして活動開始。同年、UXデザイナーとしてYahoo! JAPAN入社。現在、多摩美術大学情報デザイン学科専任講師。議論の可視化を軸に対話の場のデザイン議論の可視化について研究。
【著書】「Graphic Recorder—議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書」(BNN新社)
○専門研究分野/メディアデザイン、リポーターデザイン、ビジュアルリサーチ

▶松本 鴻太(まつもと こうた)

1993年生まれ。国立障害者リハビリテーションセンター学院児童指導員科卒業。17年より現職。
シーガルサッカークラブには、FIDドリームという知的障がい・発達障がいのある子どもから大人までを対象としたカテゴリーが存在します。私はFIDドリームで週に1、2回に選手たちにサッカーやフットサルを教えています。他カテゴリーとの交流も大切にしたいインクルーシブな雰囲気大切に、「障がいのある人たちの生涯スポーツを」最大のテーマに日々の活動に加え、普及活動にも力を入れて活動しています。
中高教諭免許(保健体育)、JFA公認C級コーチ、初級障がい者スポーツ指導員。

▶近藤 尚也(こんどう なおや)

1983年生まれ。北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。06年北海道教育大学若見沢校生涯教育課程卒業。12年同大学院修了。05年より北海道社会福祉事業団福祉村。06年より社会福祉法人わらしべ会、13年社会福祉法人北翔会を経て14年より現職。
○専門研究分野/障がいの余暇、スポーツ支援を中心とした障がい福祉

▶川本 明良(かわもと あきら)

1989年身体障害者更生施設わらしべ園入職(支援員)。91年国際ベトナムダクター教員養成大学留学・卒業。97年より現職。全国身体障害者福祉施設協議会会長 全国厚生事業団体連絡協議会副会長、(同団体)虐待防止研修委員。
社会福祉法人わらしべ会の運営について「施設福祉から地域福祉への転換」を目標に努力してきました。札幌で通所事業やグループホームの事業を開始しました。地域福祉の開始と共に私たちの法人なりの「地域共生社会」について、取り組みを始めました。

13 支援現場で取り組むアドボカシー —権利を守るために、命を守るために—

受講料 有料
2020年
1月19日(日)
13:30~15:30

会場 本学札幌サテライト
キャンパス
札幌市中央区北4条西5丁目
アスティ45 12F

定員 50名

受講料 各2,000円

講師
川本 明良
社会福祉法人わらしべ会理事長

障がいがある方の権利をいかにして護ってあげばよいのか、心を痛める事件が残念ながらも良い「アドボカシー」について、支援現場の実際を共有しながら、改めて考えて行きたいと思います。

発達障がいセミナー②
道民カレッジ連携講座 主Ⅲ-4

講師
近藤 尚也
本学看護福祉学部助教